

「新県立病院整備の検討状況についての報告会」開催結果

1. 日 時 令和8年7月26日（日） 午後2時00分から3時20分まで
2. 場 所 友部公民館 2階 会議室
3. 参加者 87名（笠間地区17名、友部地区60名、岩間地区5名、市外5名）
4. 質問・意見数

内 容	件 数
（1）移転・統合方針について	3 件
（2）交通インフラについて	1 件
（3）新県立病院の機能等について	3 件
（4）跡地利用及び看護大学校について	3 件
（5）その他	1 件
合計	11 件

5. 主な質問と回答

①移転・統合方針について

Q. 移転の必要性について疑問。現在地での建て替えは不可能なのか。

A. 県北の医療も担うことを踏まえ、水戸ICからアクセスのよい場所が求められている。

Q. 新たな候補地に移転した場合、病院の住所は笠間市としてほしい。

A. 市も同じ考えであり、県と引き続き協議していきたい。

②交通インフラについて

Q. 新県立病院への渋滞対策や公共交通など早めに検討してほしい。

A. 国道50号及び県道杉崎友部線の整備を要望している。市でも（仮称）市道鯉淵南友部線の整備を進めていく。また友部駅からの公共交通についても、バスやデマンドタクシー等の交通手段を確保していく。

③新県立病院の機能等について

Q. 新病院では高度急性期病床の拡充に伴い、命の危険がないと受診できない病院になってしまうのではないか。

A. 中央病院の外来・入院患者の4割強は笠間市民であり、救急も多数受け入れている。今後も市民の医療が守られるよう県に要望していく。併せて、笠間市立病院の機能強化も検討する必要があると考えている。

④跡地利用及び看護大学校について

Q. 看護大学校について、実習面からは病院に隣接している方がよい。現在地に残った場合は、学生が移動するためのバス等の対策が必要になる。

A. 看護大学校については、残してほしいという考えと、跡地を分断している立地であることから利活用の支障になるような場合は移転もやむを得ないという両方の考えがある。県が方針を検討する中で意見交換していきたい。